

第30回危険物事故事例セミナー

事故防止調査研修センター

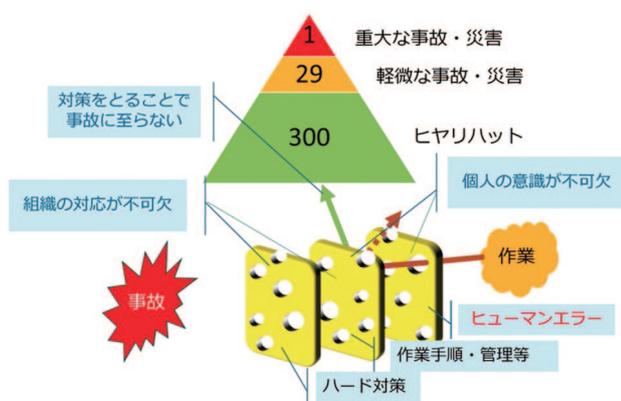
当協会主催の「第30回危険物事故事例セミナー」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、令和3年3月1日から4月30日まで Web 配信にて開催し、危険物行政に携わる消防職員や事業所において危険物の安全に係る業務に携わっている方など、171名の方々にご参加いただきました。

今回のセミナーでは次の4題について、ご講演いただきました。

- 1) 大分市消防局 予防課 危険物規制担当班 消防司令補 熊本 健志 様から、「製油所・常圧蒸留装置で発生した火災について」と題して、定期開放中の常圧蒸留装置内部より出火し、全長約60mの同装置の30m付近から座屈、倒壊し火災に発展した事例についてご紹介いただきました。
- 2) 堺市消防局 予防部 危険物保安課 主査 山崎 高志 様から、「屋外タンク貯蔵所のオーバーフローによる流出事故」と題して、JET燃料用の灯油の出荷準備のため、出荷ラインの配管を灯油で洗浄時、本来閉止すべきバルブを開放状態で作業を開始したことにより、送油を想定していないタンクでオーバーフローが発生した事例についてご紹介いただきました。
- 3) 横浜市消防局 予防部 保安課 危険物保安係 消防士長 佐々木 彬利 様から、「屋外タンク貯蔵所における底板からの危険物流出事故について」と題して、重油材を貯蔵する浮き屋根タンクにおいて発生した底部板の腐食に伴う危険物漏洩事故事例についてご紹介いただきました。
- 4) 川崎市消防局 予防部 危険物課 検査係長 大川 和人 様から、「非正常作業における配管ノズルからの重質油流出火災」と題して、重質油熱分解装置のスタートアップ作業中に配管の一部が閉塞しているのを確認したため、作業員がドレンノズルに手動ポンプを接続し貫通を試みたところ、ドレンノズルから高温の油が勢いよく噴出し火災が発生したことにより、作業員が高温の油と火災で重傷を負った事例についてご紹介いただきました。

当協会では、これからも危険物の保安対策の推進に役立つセミナーを企画してまいりますので、引き続きご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。

ヒューマンエラーによる事故防止の対策



現場調査 1 現場の様様



流出が認められたタンク東側



流出が認められないタンク北側(参考)

映像抜粋 (左: 堺市消防局、右: 横浜市消防局)